三重混声合唱団 あんだぁれ70

三重混声合唱団あんだぁれ70通信
2022年度　秋冬号
2023年2月25日　発行
発行:三重混声合唱団あんだぁれ 70
編集:広報担当(平井,小泉,田中,牧野)
ホームページ:https://andare70.jp

コロナ下でもあんだぁれは今日も進みます

With コロナで活動再開の社会状況の中、あんだぁれもマスク着用と感染防止対策をしながら秋フェスタを実施、四日市市合唱祭に参加、アンサンブルコンテストを実施し、7月23日の演奏会に向けて始動しています。

「癸・卯」(みずのと・う)

三重混声合唱団あんだぁれ 70
音楽監督　**馬場浩子**

2023年、あんだぁれは11年目の活動に入りました。
今年の干支は十干では「癸」、十二支では「卯年」なので「癸・卯」(みずのと・う)となります。「癸」は物事の終わりと始まりを意味する他、「種子が計ることができるほどの大きさになり、春間近でつぼみが花開く直前である」という意味合いもあるそうです。
「卯」は「茂」という字が由来と言われ、「春の訪れを感じる」という意味、また「卯」という字の形が「門を開いている様子」を連想させることから「冬の門が開き、飛び出る」という意味があるとのことです。
この十干・十二支の組み合わせから「癸・卯」には「これまでの努力が花開き、実り始める」といった縁起のよさを表しているようです。
そしていよいよ、今春にはコロナも「5類感染症」に引き下げられます。
2020年からの3年間、あんだぁれも困難な状況をみんなで乗り越えてきました。
2度も演奏会の中止を余儀なくされ、悔しい思いもしてきました。一方で「おしち」のオペラ出演や10周年記念演奏会、無観客での(関係者のみ)の四文でのコンサート、団内アンコン etc. 本当に精力的に活動を続けてこられたと思います。
「癸・卯」の今年は、これまでのコツコツ活動が実り、花開き、実る一年となるのです！
高齢化や練習会場の確保、団員数の補強など課題は山積みですが、「合唱」をとおして文化の振興にも携わっているあんだぁれの活動は団員おひとりおひとりの意識の高さの賜だと思います。
今年の定期演奏会は青少年とのコラボという新たな企画にチャレンジします。
歌うことを抑制され、マスクに覆われた日常が当たり前になってしまった青少年たちと一緒に「歌うことの喜び」「音楽の素晴らしさ」「舞台での良い意味での緊張感」を共有し、新しい出会いを楽しもうではありませんか・・そのために不可欠なこと・・皆様が健康で日々過ごせる!! ということです。「歌う」ことで更に健康寿命を延ばし、生き生き、元気に、明るく、楽しく、ウサギのようにぴょんぴょん飛び跳ねましょう(*^^)v

青天のへきれき

代表代行　**木村哲美**

2023年最初の練習日に突として代表代行の大役を仰せつかる事となった。
まさに青天のへきれきである。
任意団体である合唱団あんだぁれ70は、団を運営するにあたり運営委員会の他に15の係(チーム)を設け、それぞれの係(チーム)は同じ重要さで自主的に運営され、毎年お客様に楽しんで頂ける演奏会を開いて来ていると認識しています。
創設11年目からのあんだぁれ70も設立の原点を忘れず＝合唱団活動を通じて音楽を楽しみ、地域の音楽文化の発展に貢献する＝事を、運営テーマの根底に据えて活動していきます。
団員皆が共に手を取り合い、活動を前へ前へと進めていきたいと思います。
よろしくお願い申し上げます。

コーチ　重唱

アンサンブル La fata

ソプラノ　河戸満代

ソプラノ　辻美佳

第２回
秋のフェスタ

2022.9.29

三浜文化会館創作スペース

メゾソプラノ
永田智子

メゾソプラノ　川合佐知子

今回のフェスタはアンサンブル２グループ、器楽アンサンブル１、独唱・独奏７人、そしてコーチの三重唱という賑やかなプログラムで開催されました。

ソプラノ　福村知栄子

器楽アンサンブル
井上俊也･永田智子

ヴァイオリン独奏　加藤晨

ソプラノ　水野貴子

混声アンサンブル　あさの会

私の暗譜術

アルト　渡部佐恵子

楽譜を手にしたすぐに階名で音をさぐり、歌詞で歌えるようにします。電車の中、病院の待ち時間等。コーチの音取りや音源で覚えるのと並行して音叉で音を確かめては反復練習する。歌詞の構成を考えて書写し、内容を想像し味わう。覚えかけたら、楽譜なしで道を歩きながらも常に心で歌う。例えば、『合唱』は象徴的だが、四場面が絵になる。何故宇宙の果てではなく始まりなのか等想像します。

次回はあなたも
演奏して
みませんか？

音楽ちょっぴり知識

対位法とは

対位法（ 英: counterpoint, 独: Kontrapunkt ）とは、 音楽理論 のひとつであり、複数の 旋律 を、それぞれの独立性を保ちつつ、互いによく調和させて重ね合わせる技法である。(Wikipedia より)

ポリフォニーとは

ポリフォニー（polyphony）は、複数の独立した声部（パート）からなる音楽のこと。ただ一つの声部しかないモノフォニーの対義語として、多声音楽を意味する。　(Wikipedia より)

第 11 回　アンサンブルコンテスト

2023 年 1 月 15 日　　三浜文化会館創作スペース

今年も新年会は中止となり、アンサンブルコンテストのみ三浜文化会館で開催しました。馬場先生、コーチ、ピアニストに加え伊藤理絵さんに特別審査員をお願いしました。

動物達の対位法
　　金：しろくま　　銀：なまけもの　　銅：うさぎ
Christe, adoramus te
　　金：なまけもの　　銀：うさぎ　　銅：しろくま

しろくまチーム

わが「白熊」チームは練習はしっかりできたし、事前の発表でも出来はよく、自信を深めたつもりでした。しかし、それは自惚れ以外の何ものでもありませんでした。「動物たちの対位法」こそ、勢いにまかせて突っ走り金賞を確保できましたが、「Christe」は銅賞と予想外の結果でした。後で動画で確認したら理由がわかりました。リズム、音程ともバラバラ、曲のイメージも教会音楽とはかけ離れていました。過信でした。　　（テノール　稲垣範光）

アンサンブルコンテストを終えて

昨年の 11 月からあんだあれ７０の合唱仲間に入れて頂きました。まだ、入って間もないのにアンサンブルコンテストに誘って頂き、私にできるのかしらと不安半分期待半分で参加しました。課題曲の動物たちの対位法は、練習で指揮者の馬場先生からアルトの猫はライオン、とか色気が無いと言われて大笑い。みんなで色気って今の私たちに言われてもねえとまた大笑い。ミサ曲のほうでは、神様も逃げ出す元気の良さと、またピッタリのご指摘を頂き、大笑い。そんな中で自主的に集まって練習したりお茶を飲んでおしゃべりしたり楽しい時間を過ごさせて頂きました。結果はさておき、仲間とともに曲を作り上げるってこんなに素敵な気持ちになれるのですね。　　（アルト　加藤聡心）

なまけものチーム

アンサンブルコンテストで競い合い、楽しい時間を過ごすことができました。また、チームの一員として練習に参加したことも、楽しい機会でした。チーム一丸となってより高い合唱のハーモニーを創り出すために、一人一人が譜面を見て正しい音を出す努力をしていることがよく判りました。団員は高齢の方が多いが、若い者に負けないやる気がよりよい合唱に繋がっていると感じました。聖歌は心を和まし、心を温かくするものです。神聖な合唱がコンテストを越えた恵みを神から与えられたような気がします。これからもコンテストのような機会を持ちたいと思いました。
（テノール　　舩本賢二）

アンサンブルコンテストに参加させて頂き、ありがとうございました。
楽しかったです。合唱団に入団できたことと、馬場先生や団員の方々に出会えたことは、奇跡の様です。
なまけもののメンバーと共に何度も繰り返し練習をして、素敵なハーモニーを奏でることができました。そして、最後に一致団結という絆が生まれました。
（ソプラノ　加藤さと子）

うさぎチーム

アンサンブルの最初の練習では、みんなの音とリズムがバラバラで、自分も自信がなく不安なスタートでした。そんな中、みんなで各パートを支え合い、音程とリズムを確認し、意見を出し合いながら、練習を積み重ねてきました。本番では、今までで一番いい演奏ができて嬉しかったです。笑顔のうさぎさんチームでした。アンコンでは、一人一人の曲に対する向き合い方や責任の重さを改めて学びました。周りの人についつい甘えてしまいがちな自分ですが、音楽に真摯に向き合っていけるよう心掛けていきたいです。苦手意識の強かったアンコンに、楽しく取り組めました。ありがとうございました。　（ソプラノ　田中　薫）

今回初めてのアンサンブルコンテストで、チームワークの重要性を認識する良い経験ができました。振り返ると、発表練習の場で先生から途中終了を受ける波乱のスタートでしたが、それから先輩方がリーダーシップを発揮し、皆の意見に耳を傾けて、他のパートを担当して助け合い、日を追うごとに一体感が増していきました。本番では一番のパフォーマンスが発揮できたと思います。練習も本番も最高に楽しむことができて皆さんに感謝しています。　（ソプラノ　福井　朋美）

アンコン特別審査員

伊藤理絵さんからのメッセージ

本日は、ありがとうございました。お疲れ様です。

皆さまのアカペラアンサンブルを聴かせていただき、私自身がとても勉強になりました。ひたむきに音楽に取り組む姿、チームワークの良さ、音楽的なクオリティの高さなどが、落ち着いて演奏されている様子から伺えました。どんなことにも通じると思いますが、積み上げって素晴らしいと感じました。チームには必ず、居場所があって、リードする方のアインザッツが落ち着いており、それぞれに役割があってきちんとその責任を果たされている様子でした。

最後になりましたが、コーチの方々のソロ・重唱も素晴らしかったです。コーチングすることでコーチ自身の音楽に対する構成力も高まっているのではないかと、本当に羨ましくなりました。馬場先生の指揮で智ちゃんと秀ちゃんのピアノで歌える幸せをひしひしと感じ、楽しいひとときを過ごさせていただきました。これからも、皆さまのご健康とご多幸をお祈りいたしております。

伊　藤　理　絵

団員の動向（2022.8.1 以降）

2023.2.1 現在　団員数 57 名　うち休団中８名

【入団】　Ｓ加藤さと子　Ａ加藤聡心

【復団】　Ａ松井多恵子

【休団中】Ｓ鷲野美代子　Ｓ平尾玲子　Ａ亀井由美子
Ａ林淑乃　Ｔ柴田孝之　Ｔ渡邊良治
Ｂ西田正　Ｂ神田憲明

【退団】　Ｓ白村亜紀　Ｓ夏目昌子　Ｓ緒方悦子
Ｔ井上俊也　Ｔ日下部茂世　Ｔ山本範夫
Ｔ古田良幸

今後の予定

2023.7.23(日) あんだぁれ 70 演奏会
2023.11.23（木・祝）四日市市合唱祭
2023.11.26（日）　四日市の第九

編集後記

歌と笑いに包まれた幸せな時間を共有する仲間達。コロナ禍の厳しい環境の中でも、多彩な活動の成果が本号の内容に反映されています。

馬場先生の卓越した指導力、コーチの先生方、ピアニストの先生方に支えられた恵まれた環境。音楽の楽園にまた新たな仲間が加わりました。（小泉）